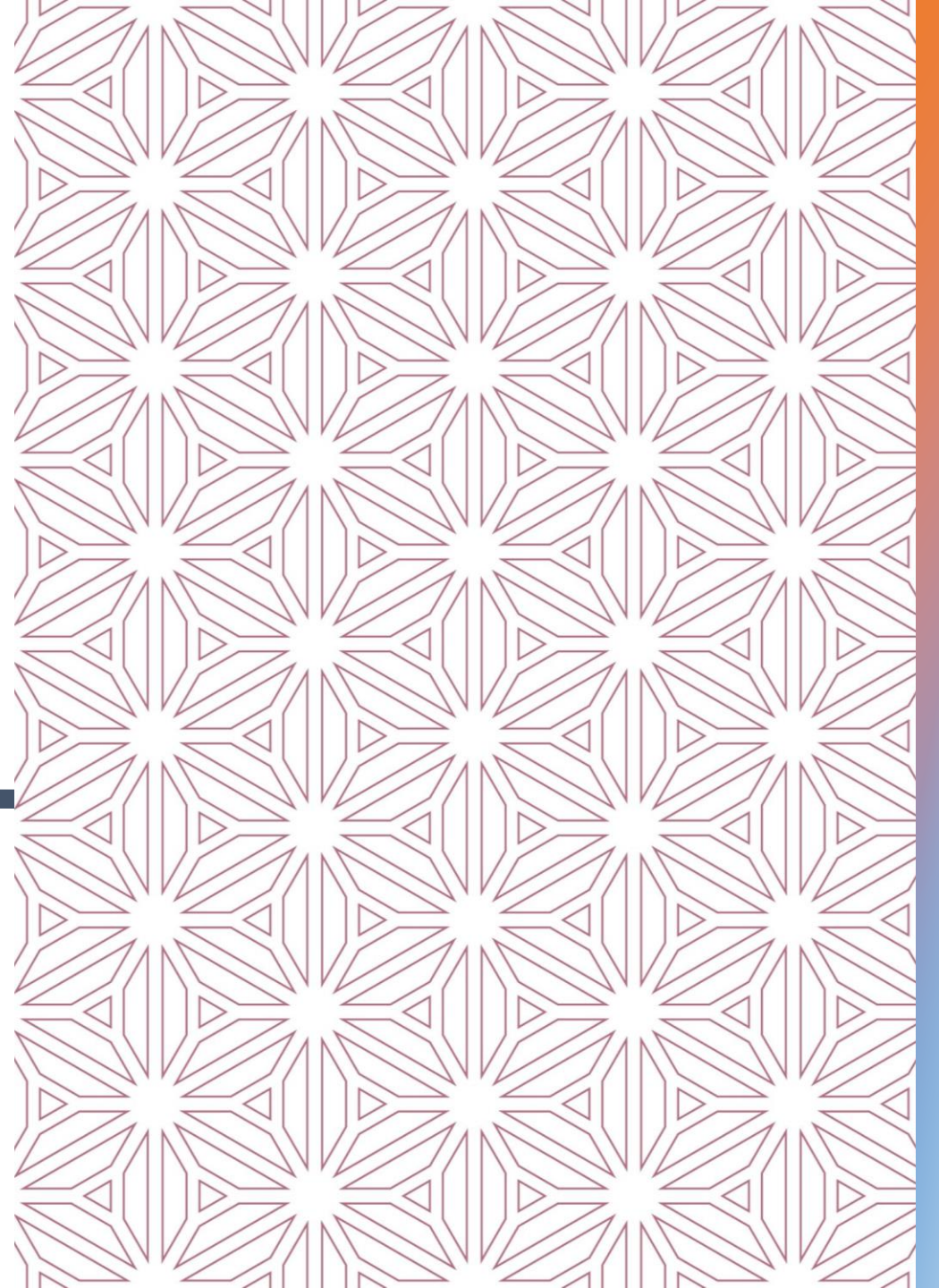


# 埼玉大学 教職大学院の紹介

埼玉大学教育学研究科  
専門職学位課程  
教職実践専攻 専攻長

小倉 康



# 教職大学院とは

教職大学院では、学卒院生と現職院生が、共に学びます

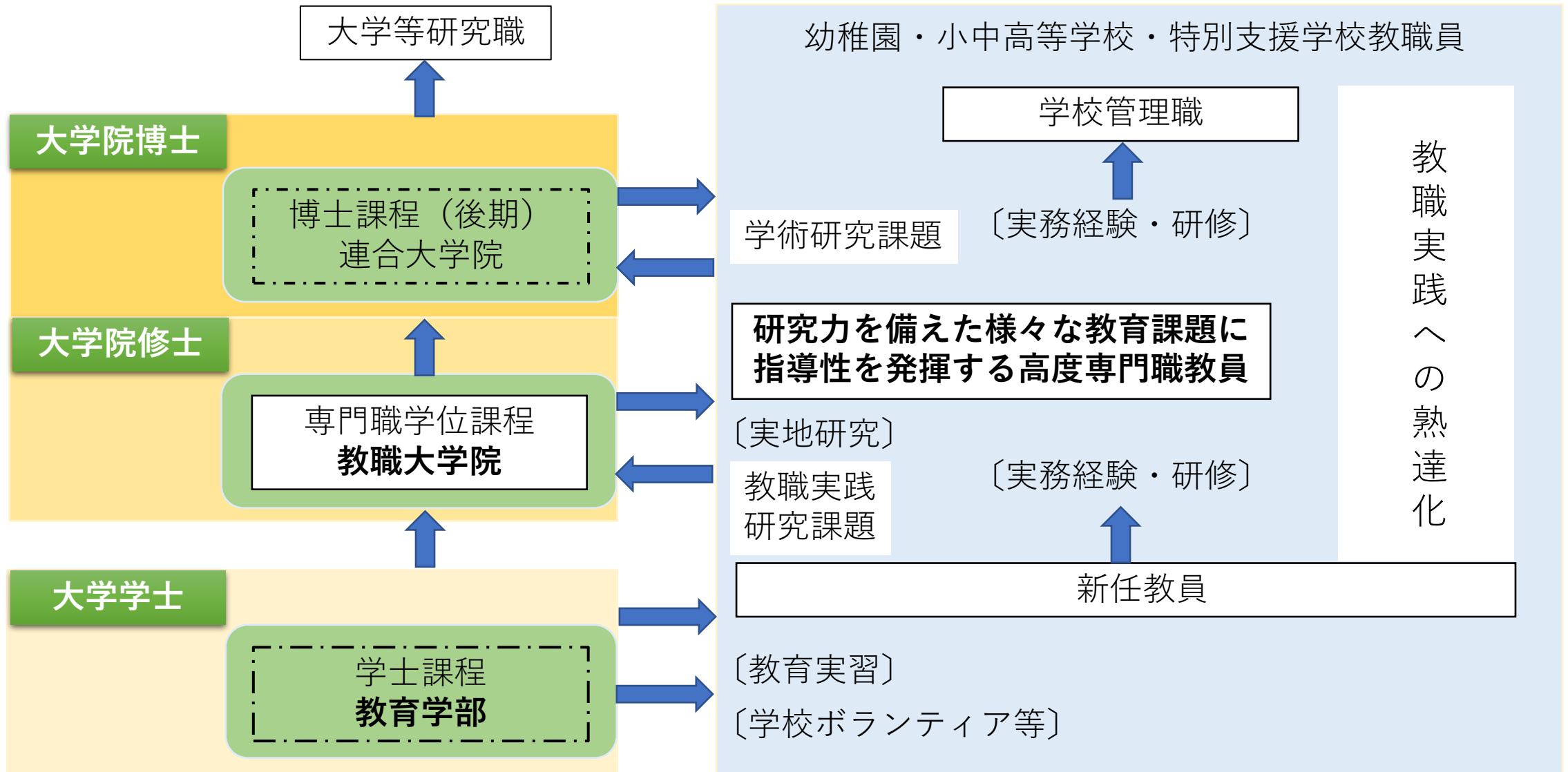
院生は、様々な大学教員の専門性を総合し、学校の協力を得て、自身の課題を探究します

教育に関わる優れた理論と学校での実践とを結びつけることを強く意識します

修了生は、埼玉県内外の所属校や教育委員会等で活躍されています



# 埼玉大学教職大学院を介したキャリアアップイメージ



# 課程・専攻・プログラム・サブプログラム・教科等

課程名	専攻名	プログラム	サブプログラム	教科等
専門職学位 課程 (教職大学院)	教職実践 専攻	総合教育高度化 プログラム	学校構想サブプログラム	
			特別支援教育サブプログラム	
			学校保健サブプログラム	
			子ども共育サブプログラム	教育学 幼児教育
		教科教育高度化 プログラム	言語文化系教育サブプログラム	国語 英語
			社会系教育サブプログラム	
			自然科学系教育サブプログラム	算数・数学 理科
				芸術系教育サブプログラム
			身体文化系教育サブプログラム	
			生活創造系教育サブプログラム	技術 家庭

# 教科教育高度化プログラム

## 教科教育高度化プログラム 新しい時代に対応する教科教育実践力の高度化

2年  
後期

2年  
前期

1年  
後期

1年  
前期

教科教育および教育課程に関する  
理論と方法論の探究

理論と実践の融合による  
教科教育実践力の高度化

教科教育及び教育課程に関する  
総合的な教育経験とその省察

課題研究II  
(2単位)

実地研究 II に  
基づく成果  
報告書の作成

実地研究 II や教科教育  
実践の諸課題解決の  
ための実践・取り組みに  
対する省察

実地研究 II  
(6単位)  
<学校での実習に関する科目>

実地研究 II の  
研究仮説の  
検証・吟味

サブプログラム科目及び  
「現代的・地域的教育課題の共同探求」  
(16単位)

自サブプログラム科目  
(必修または選択必修を含む)  
(10単位)

教科教育実践の諸課題に  
専門性をもってどう解決を  
図ろうとするのか構想

各サブプログラムの  
専門性の基礎を習得し、  
理論的な視点で実践を省察

課題研究 I  
(2単位)

実地研究 II の  
計画立案  
課題解決の  
仮説提示

省察による教科教育  
実践の諸課題の  
把握及び整理と  
自己の探究課題の  
価値づけの深化

実地研究 I  
(4単位)※  
<学校での実習に関する科目>

共通科目(16単位)  
<必修5領域に関する科目>

- ①教育課程の編成
- ②教科等の実践的な指導方法
- ③生徒指導及び教育相談
- ④学級経営及び学校経営
- ⑤学校教育と教員の在り方

現代の学校教育の  
課題を理論的に整理  
実践や実地研究の  
省察を含む

理論と実践  
の往還による  
探究課題の  
明確化

※現職院生は、指導教員の指導の下で、自らの計画に従い、研究指定校や先進的な実践研究に取り組んでいる学校などを実地研究先と定めて、延べ128時間に相当する訪問学習を行う。

教職大学院進学で  
教師としての人生を  
より豊かなものに



# 奨学金全額返還免除制度

教職大学院を3月に修了し4月から正規の教員に就く方を対象に、教職大学院で2年間受給できる奨学金が全額返還免除となります。

学費や生活費を稼ぐためにアルバイトする時間と労力を大きく減らして、学業を続けられます。保護者にも新たな経済的負担をかけずに進学することが可能です。

ぜひ、この新しい制度を活用して、一人でも多くの方が高度な実践力を身に付けた教員となり、学校教育を牽引して行ってほしいと願います。

免除対象者の条件など詳しい制度内容は  
文部科学省の公式ページにて

文部科学省 奨学金返還支援

検索



# 現職教員のための特例制度

本研究科では、現職教員が「働きながら学ぶ」ことをサポートする体制を整えています。国・地方公共団体からの現職教員派遣制度又は大学院修学休業制度を活用して、現職教員のまま入学することができます。

## 短期履修制度

教育現場で相応の経験を積んだ教員を対象とした、1年で修了できるカリキュラムです。2年で修了する院生と同じプログラムに所属し、学卒院生（ストレートマスター）と授業等を通じて互いに高め合うことが可能です。

1年次は、勤務校を離れ、昼間の授業を履修します。実地研究は個人の探求課題に基づいて、フィールドワークを行います。2年次は、勤務校に復帰し、実地研究を行いながら、課題研究をまとめることとなります。勤務の中で見出した課題を大学院の学習と往還させ、本研究科専任教員の指導の基で、課題克服の方策を探求し、高度な実践力を獲得することができます。

# 修了生の声より

- ・自分の専門教科に限らず、様々な視点から学校の現状や現在の教育について考える機会になっていたと思います。他専修の学生と共に学ぶ授業が多数あったことが良かったです。

- ・現職の方と様々な意見を交換できる機会は、とても貴重な機会でした。特に、実地研究での疑問点などを共有する時間では、他の方の意見を聞くことができ、有益な時間でした。

- ・実地研究は私にとって本当に学びの多い期間でした。教員ではなく学生でもなく研究生として学校現場を俯瞰してみることができました。初任の年は、目の前のことで忙しく前しか見れないと思います。この実地研究の期間に前だけではなく後ろをみたり周りを見たりして「これって何の意味があるのかな」「この意図はなんだろう」といったように振り返ることができました。